

マスク 10 万枚を寄贈

取手市のマーシェル

医療や福祉の現場で活用してほしいと、人材派遣や業務委託、通信、広告宣伝など幅広い事業を展開しているマーシェル（本社・取手市）の蛭原正博社長が6月26日、城西病院など達生堂グループにマスク10万枚を寄贈しました。

蛭原社長は、小川一成県議（守谷市選出）に相談し、白井平八郎元県議を通して達生堂グループに贈られることになりました。マスクは大型トラックに積んで、昼過ぎに到着。マーシェルでは、業務委託でマスクなどの衛生日用品なども製造しており、蛭原社長は「医療や福祉の現場では、マスクはなくてはならないものです。医療や福祉の現場で活用してください」と多田正毅会長にマスクを手渡しました。

達生堂グループでは、大量のプレゼントを喜び、このマスクを城西病院や社会福祉法人達生堂などの医療や福祉の現場で活用していきます。

2023年6月27日



多田正毅会長にマスクを寄贈する蛭原正博社長（中央）

©Tasseido group

